

氏名	田村武美 たむら たけみ
学位の種類	医学博士
学位記番号	論医博第508号
学位授与の日付	昭和47年7月24日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
学位論文題目	妊娠個体の磷脂質代謝に関する実験的研究

(主査)
論文調査委員 教授 西村敏雄 教授 早石 修 教授 沼 正作

論文内容の要旨

ウィスター系妊娠白鼠（後半期）につき一定量の放射性同位元素 P^{32} ($H_3P^{32}O_4$) を投与し、これが母体における肝、腎、骨格筋など、胎盤、胎仔肝などの胎仔組織磷脂質にくり込まれる率を磷脂質磷比放射能から検討し、これに及ぼす標準食時脂質負荷或いは飢餓時脂質負荷による影響をみた。その結果妊娠時では非妊娠時に比して肝、腎における比放射能は亢進しており、この傾向は脂質負荷によって一層著明となり、飢餓時では標準食に比してそれが特に顕著であり、しかるに骨格筋ではそのような相違は飢餓の際に乳剤を負荷してはじめて著明となった。胎仔肝、胎盤においてもほぼ同様の傾向が認められたが、特に胎仔肝において飢餓時脂質を負荷した場合、母体肝を上廻る高値が認められた。以上によって妊娠時では非妊娠時に比較して外来脂質が体内磷脂質合成に大いに関与しており、特にそれが妊卵組織において顕著であることが確認された。

論文審査の結果の要旨

ウィスター系妊娠白鼠（後半期）に一定量の放射性同位元素 P^{32} を投与し、この際一定量の脂肪乳剤の負荷実験をも行ない、標準食時あるいは飢餓時の条件下における母体肝、腎、骨格筋、胎盤、胎仔肝などの組織磷脂質にくり込まれる磷脂質磷放射能を検討した。その結果妊娠時では非妊娠時に比して母体肝、腎における比放射能は亢進し、この傾向は脂質の負荷によって一層著明となり、飢餓時では標準食時に比し特にこれが顕著であることを認めた。しかし母体骨格筋ではこの様な傾向は飢餓時に脂質を負荷してはじめて著明となった。胎仔肝、胎盤などの胎仔組織でもほぼ同様の傾向が認められたが特に胎仔肝において飢餓時に脂質を負荷した場合母体肝をはるかに上廻る高値が見られた。以上によって妊娠時では非妊娠時に比して外来脂質が体内磷脂質合成により一層関与しており、それが妊卵組織特に胎仔肝において著明であることを確認した。

よって、本論文は医学博士の学位論文として価値あるものと認める。